



Lesson 12.

Policy Debate (1)

Affirmative

Constructive Speech



Contents:

Section 1. 練習用の試合のルール

Section 2. Advantage の構成

Section 3. 肯定側立論例（日本語）

Section 4. 肯定側立論例（英語）

Section 5. Advantage を作る

SECTION 1. 練習用の試合のルール (POLICY DEBATE)

このレッスンからは、Policy Debate と呼ばれる形式でディベートの試合をします。前のレッスンで練習した、イギリス議会での答弁の訓練に始まった形式とは以下の点で異なります：

- ・リサーチを通じて証拠を用意することが期待される（裁判の訓練と思って下さい）。
- ・準備時間が長く、大会によっては試合を行う半年以上前に論題が発表される。
- ・Point of Information の代わりに、Cross-examination（反対尋問）の時間がある。
- ・扱う論題は、主に「～は…するべきだ」という政策(Policy)導入の是非を問う。

これを踏まえて、本 Lesson11 から Lesson14 まで、以下のフォーマットで練習をします(他の Policy Debate の形式と異なり、Summary Speech は省略してあります)：

【練習試合形式・4人制】

Affirmative Side(肯定側)	Negative Side(否定側)	Time
(1) Constructive Speech (Advantage を 2 つ提示、1 人が 1 つ)		3 分
1 minute preparation (1 分間の準備時間)		
	(2) Cross-examination (肯定側に質疑応答)	1 分
	(3) Constructive Speech (Disadvantage を 2 つ提示、1 人 1 つ)	3 分
1 minute preparation (1 分間の準備時間)		
(4) Cross-examination (否定側に質疑応答)		1 分
1 minute preparation (1 分間の準備時間)		
	(5) Attack Speech (肯定側の Advantage に反論)	2 分
(6) Attack Speech (否定側の Disadvantage に反論)		2 分
1 minute preparation (1 分間の準備時間)		
(7) Defense Speech (否定側の反論に対して立て直し)		2 分
	(8) Defense Speech (肯定側の反論に対して立て直し)	2 分
合計 20 分		

1. スピーカーの役割

各チームは4人で1組になり、以下のスピーチをそれぞれ担当します：

- Constructive Speech 前半（議論を1つ提示）
- Constructive Speech 後半（議論を1つ提示）
⇒ 2名とも Cross-examination にて、相手チームから質問を受ける。
- Attack Speech と Cross-examination で相手チームに質問をする
- Defense Speech

各スピーチでは、スピーカーは以下の役割を果たすことが期待されます：

【Constructive Speech（立論スピーチ）】

- 肯定側は、政策を採用することでどのような良いことが起こるのか、その Advantage を1人1つ、合計2つ提示します。
- 否定側であれば、政策を導入すれば逆にどのような悪いことが起こるのか、その Disadvantage を1人1つ、合計2つ出して下さい。
- 議論の説明では、可能な限り証拠を用いて下さい。

【Cross-examination（反対尋問）】

- 相手チームのスピーチで分からなかった点を質問します。
- 相手チームが出した Advantage または Disadvantage について、主張の根拠となる証拠は何であるか確認します。
- 相手チームの出した証拠の質を見極めるために、質問を行います。

【Attack Speech(反論スピーチ)】

- 相手チームが Constructive Speech で出した Advantage あるいは Disadvantage に対して反論します。
- 反論においても、可能な限り証拠を用いて下さい。

【Defense Speech(立て直しスピーチ)】

- 相手チームが自分たちの Advantage あるいは Disadvantage に対して行った反論に対して、立て直し(reconstruction)を行って下さい。
- 可能な限り証拠を用いて下さい。

2. その他のルール

他に、以下のルールを踏まえて下さい：

- 1) 論題は、定義の必要がなく具体的で、「～をすべきだ」というある政策の是非に関わる物を選んで下さい。また、論題が何を意味するのかについて、お互いのチームに食い違いないように、論題を発表した後で細部を確認して下さい（論題を選んだ人が、その意図を解説するのが良いでしょう）。

【例】

- × Corporal punishment is justifiable. (体罰は正当化され得る)
⇒ 「～すべきだ」という政策に関する論題ではないので不適。
- All teachers who have physically punished students should be arrested by police. (体罰を加えた全ての教員は警察に逮捕されるべきだ)
⇒ 何をどうすべきか具体的に述べているので適当。ただし、全ての教員とあるが、(日本の) どの種類の学校での話とするのか、確認が必要です。

- 2) スピーカーは、与えられた時間より早くスピーチを終えても構いませんが、その場合でも指定されたスピーチ時間が経過するまで次のスピーカーに移らず待っていて下さい。
- 3) Cross-examination では、質問をする人と受ける人がそれぞれ一名ずつ決まっていますが、チームの残りの人はその代表者にメモなり、小声なりで助言をして構いません。
- 4) 試合が始まってから何度かある準備時間中では、相手が用意した証拠資料を見せてもらうことが出来ます。

3. 練習課題：スピーチの順序に慣れる（即興の英語スピーチに十分慣れている場合のみ）

下に挙げたような、リサーチをしなくても話せる論題を選び、準備時間 15 分程度でこのフォーマットを使い複数回練習して下さい。皆が常識的に知っている情報を証拠として使って下さい（そして、その証拠について Cross-examination で問い詰めて下さい）。

- 1) We should have a convenience store in our school.
(私たちの学校にはコンビニを入れるべきだ)
- 2) Our school should introduce air conditioners in all classrooms and abolish the summer vacation. (全ての教室にエアコンを入れて、夏休みを廃止しよう)

SECTION 2. A D V A N T A G E の構成

Lesson 4 では、議論の構造として以下のものを説明しました：

○ 議論の構成(確認)

- ① Signpost (標識・議論名)
議論の名前(新聞記事での見出しに相応する物)
- ② Opinion / Assertion / Claim (主張・意見)
議論の要旨を1文にまとめた物(新聞記事でのリード文)
- ③ Reasoning (論証)
どうしてその主張が成り立つか、段階を追った説明
- ④ Evidence (証拠)
主張を裏付ける例、小話、統計など
- ⑤ Significance (重要性) / Relevance (関連性)
その議論がどうして重要で、関連性があるのかの説明



この構成要素は、最も基本的で様々な論題に応用出来るのですが、準備をする時間があり、より緻密な議論を作ろうとする際には逆に単純すぎて、使い難いかもしれません。それで、以下ではこの構造をより細分化して、議論を作る練習をします。

1. Advantage(AD)の構成

これまでに何度か、「ある政策を取るべきだ」ということを説得するためには、以下の構成で話せばより伝わりやすくなると説明しました：

- (1) 現状でどの様な問題があるかの説明
“Under the current situation, ～.”
- (2) その政策を取ったら何が起こるのかの説明
“Then, after the plan adoption, ～.”
- (3) どうしてこの問題を解決するのが大切かの説明
“This point is important because ～.”

これら3点は、議論に関する学問の流れの中で、概念的により洗練され、それぞれ特別の用語が与えられています。以下で、少し詳しく説明します。

○ Advantage(AD)の詳細な構成

- ① Inherency(Present situation): (現状の問題の分析)
 - 1) 現状では問題が存在する
 - 2) 政策が導入されないとこの問題は解決されない (補足的内容)
- ② Significance(Impact, Seriousness): 問題の重要性・深刻性
 - 1) それは量的にどれだけ重要な問題か
 - 2) それは質的にどれだけ重要な問題か
- ③ Solvency(Effect): 問題がどう政策によって解決されるのか (発生過程)
 - 1) 政策は実行できるのか(feasibility)
 - 2) 政策が実行できたとして、問題を解決できるのか(workability)

* それぞれの要素の名前には、変種があります。専門用語に振り回されず、それぞれが表している概念自体を理解するよう心がけて下さい。



上で分かる通り、このフォーマットでは現状分析の後に問題の深刻性を説明します。「問題があり、その解決は緊急を要するが、この政策をとればこの様に解決する」という順番で述べた方が、より伝わりやすいからです (否定側立論では、後で確認するように問題の深刻性は最後に述べます)。ただしこの順番は、こうしなければならない、という類のきまりではありません。

ここでは、古典的な Fat tax の論題 (The Japanese government should introduce fat tax) を用いて例示します。Fat tax とは、イギリスなどで導入が以前から議論されている、ハンバーガーなどの脂肪分の多い食べ物(fattening food)に対して課す、一種の消費税です。肥満対策として、その原因となる食物の消費を抑えることが目的です。Fat Tax という概念は、1994 年に Yale 大学の心理学の教授がニューヨーク・タイムズに寄稿した記事によって広まりました。7%から 10%の税率で導入が議論されています。

この Fat Tax を日本に導入した場合の Advantage として 「より日本人が健康になる」と主張してみましょう。まずは、現状の問題の分析に関する Inherency という項目です。この語は「本来備わっている、生まれつき存在する」という意味の形容詞 Inherent の名詞形で、この部分では現状の仕組みでは、どうしても問題が生じるということを説明します。

解決を試みる問題としては、日本人の間では肥満の人が増えているということが挙げられます。価格の安いファーストフード店で食事をする人が多いことが、肥満の増加の一因となっているとは、頻繁に言われていることです。

次に、その問題を解決することがどうして重要なのか説明します。この項目は、Significance とも Impact とも呼ばれます。重要性の量的な説明としては、大抵影響を受ける人の数が言及され、Fat Tax の場合は肥満の人が増えているという数値を用意すれば良いでしょう。質的な説

明としては、肥満であることが高血圧や心臓病という病気につながると言えます（病気になることは避けるべきだ、という価値観を前提しています）。以上によって、現状では問題があり、その解決はとても重要であると説明できます。

次に、専門用語では Solvency または Effect と呼ばれる、実際にどうその問題が政策によって解決されるのかの説明です。まずは、本当にこの政策が実行可能なのかの説明です（「実行できる」という形容詞、feasible を名詞形にした feasibility という用語が与えられています）。ファーストフード店の商品に課税をする、というのはさほど難しくないでしょうが、例えば他に「小中学校で英語を必修化する」という数年前によく扱われた論題では、どうやって英語教員の数と質を揃えるのか、という点で試合において 1 つの争点になりました。

この Solvency の 2 つ目の要素としては、どう政策が問題を解決するのかの説明があります。この説明は、「(計画などが) 上手く働く」と言う意味の workable という形容詞を名詞にした、Workability と呼ばれます。Fat Tax の議論では、「新しい税金により価格が上昇する結果、人があまりファーストフード店で食事をしなくなり、間食が減るかより健康的な食べ物を取る用になる帰結として、より健康的になる」と論証することになります。

2. 最低限これだけ分かれば十分な知識

上で詳細に説明した Advantage ですが、あまり細部にこだわらず、とりあえずは「何かをするべきだ」という内容のスピーチをするときには、以下の構成で話せば伝わりやすくなる、という程度の理解で構いません。

○ 政策導入の是非に関する立論スピーチの構成

- ① 導入したい政策の説明
↓
- ② 解決したい問題の説明 [現状分析(present situation)]
↓
- ③ その政策で、どう問題か解決するか説明 [発生過程(process)]
↓
- ④ その問題解決で生じるメリットの重要性 [重要性(significance)]

Lesson 4 で導入した「制服を廃止するべきだ」という論題のスピーチを思い出して下さい（以下に、より構成が分かり易くなるよう書き改めたものを載せました）。上の 4 要素が、それぞれどこで説明されているか、読み取って下さい。

Hello everyone. I think our school should not have school uniforms.

I will give you one reason. It is about the uncleanness of school uniforms. I will argue that school uniform should be abolished because they are so dirty.

First, let me ask you how often we wash school uniforms. We wear the same uniform every day. Only at the arrival of a new season do we usually change our uniforms. They are not washed or cleaned often. They are very dirty.

Then, please imagine the situation when we abolish school uniforms. What will happen is that we wear different clothes every day. When we were in elementary school, where there is no uniform, we wore different clothes every day. This is much better for our health.

Why is this issue so important? Of course, we, children are weak and need to be protected against diseases. Our School has the responsibility to make sure that we will not get sick because of bad health conditions. For this reason, I think we should abolish school uniform. Thank you. (175 words)

この文章構成を確認するために、もう少し練習問題を解いてみましょう。



3. 並べ替え問題

以下の文を、意味が通じるように並べ替えて下さい。

【最初の文】 Railway companies should introduce "student-only train cars (学生専用車)" so that we, high school students can study harder on train.

- ① So, I believe we should have a special train car for students, where we can study as if we were in a study hall(自習室) .
- ② For example, because there were some adults who talked too loudly, I could not study much on train this morning.
- ③ Nowadays, it is very difficult for us to study on train.
- ④ The future of our society depends on today's young adults.
- ⑤ This is why I failed to pass the English vocabulary quiz today.
- ⑥ If we have such a place, our academic achievement will improve.

【最後の文】 The more we study, the better our society will be, so introducing this special train car is very important.

【答え】 () → () → () → () → () → ()

4. 欠けている要素探し

議論の構成についての知識があれば、議論の弱点をよりの確に把握できるようになります。以下の 1 文でまとめられた議論の問題点を、上で説明された Advantage の要素に注目して考えて下さい（答えの可能性は無数にあります）。

- ① いつか来るかもしれない地球外生命体の侵攻を食い止めるために、国連は人型ロボット兵器を開発するべきだ。
- ② 核の脅威に備えるために、日本も核兵器を保有するべきだ。
- ③ 自国の文化をより学んでもらうために、高校生の制服は着物にしよう。
- ④ 自国の文化をより学んでもらうために、高校の体育の授業では女子も剣道か柔道をしてもらおう。
- ⑤ 通学・通勤中に電車が混んで携帯ゲーム機で遊べない人のために、鉄道会社はゲーム専用車両を導入するべきだ。
- ⑥ 男性が痴漢に間違われないように、男性専用車両を導入するべきだ。
- ⑦ 高校野球をする生徒は練習で疲れているので、授業中に寝てもしょうがない。
- ⑧ 高校野球をする生徒はおしゃれをする時間があれば素振りをするべきなので、彼らがまゆ毛を整えることを禁止しよう。
- ⑨ 日本の人が皆、豊かな生活を送れるよう、毎月 10 万円の給付金を国民に与えよう。
- ⑩ 絶滅の危機に瀕しているホッキョクグマの生態系を守るため、冷房の設定温度は 28 度にしよう。

SECTION 3. 肯定側立論例（日本語）

上で確認した Advantage(AD)の構成を簡単に確認出来るように、日本語ディベートの原稿を用意しました(読み飛ばして構いません。英語での例も続きます)。以下は、2010 年度の関東甲信越地区中学・高校秋期大会（証拠引用の必要がない部門）で優勝した、豊島岡女子学園高校のチームが用意したスピーチ原稿です。論題は次の通りです：

「日本は青少年の深夜外出を禁止すべき。是か非か」

肯定側立論

みなさん、こんにちは。私たち肯定側は、青少年の深夜外出を禁止することで、子どもの非行を防ぎ、また安全なよって、「日本は青少年の深夜外出を禁止するべきか」という論題に対し、肯定の立場をとります。

プランを説明します。プランは、次の4点です。

1. 青少年とは、18歳未満の者とする。
2. 深夜とは、23時から翌日4時までとする。
3. 保護者は外出させない努力義務を負う。
4. 保護者以外の成人が連れ出した場合には、30万円以下の罰金に処する

3の保護者の努力義務とは、病院に行く場合など、特別の事情がない限り、保護者は外出させないよう努力が望まれる、という内容です。

この肯定側の政策を導入することで、2つのデメリットが生じます。

■ メリット 1:「子どもの非行防止」

一つ目のメリットは、「子どもの非行防止」です。政策が導入されると、子どもの非行を防ぐことができると私たちは考えます。このメリットを、以下の3点に分けて説明します。

A) 現状の分析

現状の問題を、3点から説明します。

① 深夜の徘徊は非行を助長する

深夜では大人の目が行き届かず、それにより日中であれば難しい軽犯罪が、容易に可能になってしまいます。

代表的な軽犯罪には、まず乗り物の窃盗があります。自転車や、オートバイの盗難は、日中であれば人の目があり抑制されます。高校生が数人集まり、誰かの自転車の鍵をいじっていれば、必ず誰かが通報したり、声をかけるでしょう。

しかし、夜中であれば、駐輪場といった場所に止められている自転車に数分間とどまり、何らかの特殊な方法を使い、鍵をこじ開けることが容易になります。まず、通りがかってそれを目にする人は少なく、そして通りがかったとしても、暗闇のせいで具体的に何をしているのか分かり難いのです。そして、分かったとしても、他の通行人が少なく、若者と口論になった場合加勢してくれる人が少ない夜間では、声をかける人はほとんどいないでしょう。

軽犯罪の別の例として、飲酒と喫煙があります。乗り物の窃盗と同様に、大人の目が行き届かない深夜では、高校生などが仲間内で集まり、飲酒や喫煙を行うことが可能になってしまいます。

② 成人による深夜の連れだし

未成年がそもそも深夜に出歩く原因として、大人に誘われ、連れ出されることがあります。

まず、高校の先輩などに呼び出される場合があります。元部活の先輩などに呼ばれ、仲間内で公園などに集まることで、日中では出来なかった非行行為が、集団心理で出来るようになってしまいます。

通常であれば、たいいていの子どもは喫煙や飲酒を行わないでしょう。しかし、子どもが、学校や先輩や成人した先輩にすすめられれば、断ることは容易ではありません。深夜という非日常性もあり、子どもは普段は行わないであろうことも、仲間内であれば、容易に為しえます。

加えて、16 歳以上であれば普通 2 輪の免許の取得が可能であり、大人によるバイクを用いた暴走行為に未成年が誘われ、加わることが可能になっています。

また、いわゆる出会い系サイトなどで知り合った相手などと、未成年が深夜まで遊び歩く場合があります。未成年の性被害は、より人目のない深夜であればあるほど、危険になります。

③ 現状の取り締まりは不十分

現状でもこの問題が認識されており、警察や補導員によって補導が行われていますが、罰則が弱いので夜間の出歩きを防ぐに至っていません。

保護者以外の成人が未成年を連れ回し、補導を受けた場合、何がおこるでしょうか。家に子どもは帰され、警察を通じて学校にも通知されてしまいますが、それ以上のことはありません。連れ回した大人に対して、罰則がありません。

監督責任のあるはずの親が、子どもの出歩きを黙認している場合、その大人による連れ回しを防ぐことが出来ません。子どもはまた、深夜の徘徊を続けるでしょう。

以上の通り、大人による深夜の未成年の連れ回しという、軽犯罪、非行、そして性被害の温床に対して、有効な対策が現状ではありません。

B) 政策導入で何が変わるか

それでは次に、政策を導入した場合、何が起こるでしょうか。

成人が未成年と深夜出歩いていた場合、その成人は 30 万円の罰金となります。これにより、成人の連れ回しが抑止され、未成年の深夜の徘徊が減少すると考えられます。

C) 深刻性

それでは最後に、どうして「大人による深夜の未成年連れ回し」を防ぐことが大切か、述べさせていただきます。

大人による未成年の連れ回しは、先ほど述べたとおり、集団心理からの飲酒・喫煙といった非行、そして乗り物の窃盗を助長します。バイクを用いた暴走行為に加われば、交通事故に遭う危険性があります。また、深夜の徘徊は性被害を招きます。これらを防ぐための政策を導入することは、判断力と責任能力が不足した未成年に対しての、社会の責任であると言えます。

以上で、1 つめのメリットの説明を終えます。

■ メリット 2 : 「静かな住環境」

2 つ目のメリットは、「静かな住環境」です。

政策が導入されると、深夜の未成年の徘徊が減少し、その結果としてより静かな住環境が守られます。

A) 現状分析

まず現状では、未成年が夜間に出歩き、コンビニエンスストア、公園などで騒いでいることで騒音被害が起きています。未成年が、大声で話したり、バイクを乗り回したりする結果、付近の住民の静かな夜が妨げられています。

B) 政策導入で何が変わるか

深夜の出歩きを禁止すれば、先ほどメリット 1 で述べた仕組みで、青少年の深夜徘徊が減少します。その結果、彼らの出す騒音被害も減少します。

C) どれだけこの問題が深刻か

夜間に静かな時間を過ごし、また睡眠を取ることは、重要な生活上の権利であると考えられます。この現状では、十分に守られていない権利が、プランにより守られます。よって、このメリットは重要であると考えられます。

以上で、肯定側の立論を終えます。ありがとうございました。

(2394 語)

SECTION 4. 肯定側立論例（英語）

次に見るのは、渋谷高校英語ディベート部が 2008 年度の高校生全国大会用に作成した立論スピーチ例です。論題は、Lesson 9 で触れた「成人年齢を 18 歳に引き下げるべきだ（ただし飲酒喫煙は現状のまま）」というものです（当時は成人年齢引き下げは、実施段階以前でした）。

スピーチの分量は、全国大会のルールで規定されている 4 分丁度で終わるように調整されています。また、Advantage は 1 つだけ説明されています。原稿のフォーマットは普通のライティングで期待されているものとは異なり、スピーチする上で読み易い様に行を変えたりインデントを工夫しています（試合で使った原稿には、さらに蛍光ペンなどの書き加えがあります）。

教員の手には抛らず、生徒自身が証拠を探して書いたスピーチなので（当時、高校 1 年生の小野くんが担当しました）、必ずしも良いお手本とは言えないかもしれませんが、上で説明された Advantage の要素がどう説明されているか（あるいは抜け落ちているのか）確認して下さい。付記すれば、この例では Solvency(effect)と Significance の説明の順番が前後していますが、聞き手に内容がきちんと伝わる限りで、問題は無いでしょう。

【CD. Track #21】

Affirmative Constructive Speech

We claim that we should lower the age of adulthood to 18.

Plan: Our plan includes three components.

Number (1) people who are over 18 will be given the right to vote.

Number (2) those who are over 18 will be punished as adults.

Number (3) those who are over 18 will be given all rights granted by the civil laws of Japan.

Benefit: Political participation of young adults.

The government will be able to hear the political views and opinions of the younger generation and better address the social problems of future generations of Japan.

1. Present Situation

Under the status quo, the government does not take care of the younger generation as much as the older generation because the majority of voters are of the older generation.

According to NPO Network, Rights (2000),

“Because the majority is elderly people, the politicians tend to focus on them more. Politics and politicians tend to focus on people who are most likely to vote. So, the elderly are getting more attention. This is a threat to a liberal democratic society.”

Let me give you another piece of evidence.

According to Nicolas Kohler and Colin Campbell (2008),

“Realizing that few young people vote, few politicians are willing to address their concerns.”

These pieces of evidence clearly show how the younger generation is ignored by the government.

2. Effect

If we introduce this plan, this problem will be solved in 2 steps.

Step1: Young adults will participate in politics.

Let me quote what Mr. Munei, who is a professor at the University of Osaka, said in an article of Japan Economy Newspaper published on December 4th, 2008.

“If the government gives the right to vote to young adults, they will become more interested in politics and start to study politics.”

Let me give you another piece of evidence taken from the report of Nara prefectural government (2003)

“In Higashiyoshino area, the people who were between 18 and 20 years old were given the right to vote when they had local referendum on combining with other cities. Then, 90% of them voted.”

These evidences clearly show that young adults will participate in politics and study social issues if we introduce this plan.

Step 2: The government will hear the political views and opinions of the younger generation.

Let me quote an article of Asahi Newspaper published on July 22nd, 2007.

“Giving the right to vote to young adult is one of the effective ways to reflect their voices on the unfairness of politics such as the pension system of the budget deficit of Japan.”

Also, the voices of the younger generation have strong potential to change policies themselves.

According to Martin P. Wattenberg, a professor of University of California (2008), after studying the case of the United States, he concluded as follows.

“Thanks to the votes of the young voters, the Democrats managed to win the election in 2006. Congress soon backed legislation directed at helping young Americans such as the rise of the minimum wage.”

Therefore, we can achieve our goal.

3. Significance

The government has the responsibility to carry out politics on the basis of EVERYONE's voices. The government has to take care of all citizens including the younger generation.

Let me quote an article of Mainichi Newspaper published on March 23rd, 2008.

Quote, “We are living in an aging society. So, we should expect more contribution from the younger generation to society. Moreover, in 166 countries, the age of adulthood is 18. When we look at other countries, we can easily see that there is no appropriate reason why only Japan should keep it at 20.”

Finally, let me quote an article of the Daily Yomiuri published on December 17th, 2008.

“With the declining of birthrate and the growing portion of elderly people, it is extremely important to give the younger generation a sense of participation in society as leaders in a depopulating nation.”

This is the end of my speech. Thank you.

(662 words)

SECTION 5. ADVANTAGE を作る

それでは、実際に Advantage を作る練習をしてみましょう。まずは、以下に用意したシートを用いて、あなたの学校の何かの問題解決案を説明するスピーチを作ってみましょう。

1. 学校の問題解決スピーチ

Hello everyone. Today, I would like to talk about one idea which would make our school better.

【Problem】 Our high school has a problem now.

.....
.....

【Process】 Then, how will this problem be solved?

We can solve this problem by

【Importance】 Why it is important to solve this problem?

This problem is very serious because

.....

For this reason, we need to introduce this plan. Thank you.

Class - SID# Name

2. リサーチの必要な論題で Advantage を作る

以下の論題から 1 つ選び、少し時間をかけてスピーチ原稿を用意してみましょう。

【練習用の論題例】

- The Japanese government should ban the 24 hour operation of retail stores such as the convenience stores (日本政府はコンビニエンスストアといった小売店の 24 時間営業を禁止するべきだ)。
- The Japanese government should ban the construction of new nuclear power plants, remove old nuclear reactors, and eventually take away all the nuclear power plants in Japan in 30 years (日本政府は、原子力発電所の新規建設を止め、また老朽化する原子炉は廃炉し、今後 30 年間で原子力発電所を全廃するべきだ)。
- The Japanese government should ban the use of cellphones by junior high school students and younger (日本政府は、中学生とそれ以下の子どもの携帯電話の使用を禁止するべきだ)。

いきなり書き始める前に、まずはブレインストーミングをしてみましょう。次のページのワークシートを埋めて、1 つの Advantage の各要素を考えます。

大まかな内容が整理できたら、次はどんな証拠があればより説得力を増すスピーチとなるか、考えます。上の 3 つの論題はそれぞれ、何かしらリサーチを行い、証拠を用意する必要があります。図書館に行って調べ物を行う前に、大まかな議論の内容と必要となる証拠の検討をつけておけば、より効率的にリサーチをすることが出来ます。そのリサーチの前段階の作業と思って下さい。資料も用意したら、続くページのフォーマットを使って書き始めてみましょう。

ここで用意したフォーマットは、2 人で Advantage または Disadvantage を 1 つずつ担当してスピーチをするためのものです。1 人目のスピーカーしか言わないこと、肯定側しか言わないことなどがあります。フォーマットの注記を読んで確認して下さい。

書き終えたら、これまで通り発表してみましょう。時間の余裕があれば、質問と内容の要約も試みて下さい。



Brainstorming Sheet (Advantage)

■ AD [1 / 2] Signpost(見出し):

A. Inherency (Present situation): 現状の問題の分析		
1)	The problem we have to solve is:	【探す必要のある証拠】
2)	One of the reasons why this problem is happening is the lack of our proposal because:	
B. Significance (Impact / Seriousness): 問題の重要性		
1)	This problem is quantitatively serious because:	【探す必要のある証拠】
2)	This problem is also qualitatively serious because:	
C. Solvency(Effect): 問題がどう政策によって解決されるのか		
1)	Our proposal is feasible because:	【探す必要のある証拠】
2)	Our proposal can solve the problem as follows:	

Class() #() Name _____

Format for Constructive Speech (肯定・否定、1人目・2人目共用)

My name is 【←大会では、各人の担当スピーチを確認するため名前を言います】

Let's me start [affirmative / negative] constructive speech.

We [affirmative / negative] team believes that

.....
【↑肯定側は、「～という政策を採るべき」、否定側は「～という政策を採るべきではない」と自らの立場を明確化します】

【Plan】 Let me explain our plan.

- ①
- ②
- ③

【肯定側は、論題を具体化する必要がある場合、その内容を箇条書き形式で説明します】

■ [Advantage / Disadvantage] [1 / 2] [.....]

..... 【↑議論の見出しである、signpostを入れて下さい】

We claim that if we take this plan,

.....
【↑これから詳しく説明する Advantage の内容を、1文でまとめて提示します】

Present Situation : At present,

.....
【↑肯定側なら現状の問題を、否定側なら現状がいかに上手く行っているかを説明します】

Effect : Then, what will happen if we take this plan?

【↑肯定側なら、いかにその問題が解決されるかを、否定側なら、いかに現状の良さが失われるかその仕組みを説明します】

Importance / Seriousness : This is [important / serious] because

【↑肯定側はその問題解決がどう重要であるかを、否定側はその現状の良さを失うのがどう深刻な事態か説明します】

Therefore, we [should / should not] take this plan.

【肯定・否定1人目の場合】

Next, my partner is going to explain our second [advantage / disadvantage].

【肯定・否定2人目の場合】

This is the end of our constructive speech. Thank you.

【2人のスピーカーは、1人目のスピーチが終わったら、前置きを入れずにすぐ2つ目の Advantage または Disadvantage の説明に入ってください】

Class() # () Name: _____



Lesson 13.

Policy Debate (2)

Negative Constructive Speech



Contents:

- Section 1. Disadvantage の構造
- Section 2. 否定側立論例 (日本語)
- Section 3. 否定側立論例 (英語)
- Section 4. Disadvantage を作る

SECTION 1. DISADVANTAGE の構成

ディベートの試合において否定側は、現状のままだが良く、肯定側の提唱する政策を取れば、何らかの新しい問題が生じるか、今既に存在する問題が悪化するというスタンスで戦います。この「現状のままだがよい」という基本線を踏まえて、否定側が議論として提示する Disadvantage(DA)には、以下の構成があるものと期待されています。

○ Disadvantage(DA)の構成

① Uniqueness (Present situation): 現状で問題が起きていない確認

- ・ 現状では問題が存在していない
または
- ・ 問題があるが、それは最低限許容できる程度である

② Link (Effect): 政策が導入されるとどう問題が生じるかの説明

- ・ 政策によって、どう新しい問題が生じるのか
または
- ・ 政策により、すでに存在していた問題がどう深刻化するか

③ Significance(Impact, Seriousness): 問題の重要性・深刻性

- 1) 量的にどれだけ重要な問題か
- 2) 質的にどれだけ重要な問題か



ここでは、オーストラリアやギリシャでは導入されている、投票の義務化を例に取り解説します。オーストラリアでは、強制投票(compulsory voting)が導入されており、大まかに言えば投票をしなければ 1 万円程度の罰金を支払わなければなりません。その結果もあり、国政選挙の投票率は 95%程度になっています。この強制投票を日本で導入するべきだ、というプランに対して Disadvantage を考えてみましょう。

考えられる Disadvantage として、知名度が高いだけで能力に疑問のある候補者(celebrity candidate)が選ばれやすくなる、という懸念があります。今まで投票してこなかった人が、罰金を払いたくないが為に適当に候補者を選ぶようになり、その結果本当は好ましくない人が当選してしまうかもしれません。この懸念を、上の構成に落とし込んでみましょう。

まずは、現状分析に関する Uniqueness です。この項目では、「これから示す問題は、他の要因ではなく、肯定側の提示するプランによってユニークに生じる」という点の立証を行います。あるいは、その問題は現在でも存在すると認めた上で、「肯定側の政策を導入すればこそ特別に、その問題は悪化してしまう」という説明します。

投票の強制化で言えば、現在は政治に興味を持っていなかったり、特定の支持する候補者がいない人は、投票をしていません。よく考え、政治について関心の高い人だけが票を投じ、その結果最適な人が選挙で当選していると言えます。「適当に選ばれた候補者が当選する」という事態は起きていません（あるいは、そのように当選している人はごく少数だ、とも主張出来ます）。

次に、プランが導入されることでどう問題が発生するのかの説明です。このプラン導入による変化の過程の説明を指す言葉として、Solvency という用語が使われていました。Advantage は、つまりは問題を解決する仕組みの説明であり、solve という動詞から派生した Solvency というこの用語を用います（もちろん、聞き手に分かってもらえるのであれば、他の用語を使っても構いません）。

その一方で Disadvantage では、政策の導入がどう問題の発生に結びつくかを説明するため、Link という別の用語が用意されています（「プランによる効果の説明」ということで、Effect という語を共通して使うことも出来ます）。

投票義務化の論題に戻れば、義務化されたといって、突然これまで政治に無関心だった人が候補者について入念に調べたり、社会問題について余暇の時間を費やして学び始めるとは思えません。罰金を払いたくないので、乱暴な表現を使えば「ゴミを出しに行く感覚で」投票をしてしまうかもしれません。その結果、単に知名度の高いだけの候補者が選ばれてしまうかもしれません。

Significance においては、先ほどの Advantage でのそれと同様に、この「知名度が高いだけで資質に欠けた候補者が選ばれる」という問題が、量的にそして質的にどれだけ深刻な問題であるのか説明をすることになります。

2. 欠けている要素探し

Advantage の説明で行ったのと同様に、以下の 1 文でまとめられた Disadvantage の問題点を指摘して下さい（答えの可能性は無数にあります）。

- ① ギャンブル中毒になる人が出るので、東京にカジノを作るべきではない。
- ② 家族との会話の時間が減るので、子どもに携帯電話を持たせるべきではない。
- ③ 生徒が授業を聞かなくなるので、英語の授業で和訳を配布することには反対です。
- ④ メタボになる人が増えてしまうので、私たちの街の商店街にファーストフード店が出来ることには反対です。
- ⑤ 世界で起きている紛争を助長しかねないので、日本政府は武器の輸出を禁じた「武器輸出 3 原則」の緩和をするべきではない。

SECTION 2. 否定側立論例（日本語）

英語での否定側立論例を読む前に、まず日本語の原稿を読んでみましょう。今度は証拠引用を含んだスピーチ例です。論題は以下の通りです：

「日本政府は、小中学生が携帯電話を所有することを禁止するべきである」

否定側立論

みなさん、こんにちは。私たち否定側は、携帯電話は子どもが安全で、便利な生活を送る上で欠かせない道具だと考えます。よって、「小中学生の携帯所有を禁じるか否か」という論題に対し、否定の立場をとります。

肯定側の政策を導入することで、2つのデメリットが生じます。

■ デメリット 1：「子どもの安全性の低下」

1つ目のデメリットは、「子どもの安全性の低下」です。政策が導入されると、子どもが犯罪により遭いやすくなると私たちは考えます。このデメリットを以下の3点に分けて説明します。

A) 現状の分析

- ・まず現状で、携帯電話を持つことで、小中学生は犯罪被害から守られています。携帯電話で帰宅時間を連絡したり、頻繁に家族とやりとりをしていれば、何かあった場合家族が異変に気づいてくれます。また、携帯電話を持っていれば、犯罪被害に遭った場合、助けを求めることが可能になります。

【証拠 1】2008 年に、沖縄で女子中学生が米兵に連れ回された事件がありました。少女は携帯電話で友人に助けを求め、警察に保護されました。

琉球新報、2008 年 2 月 12 日の記事を引用します。

『助けて』一。つながっ放しの携帯電話から、時折少女の叫び声が響いた。迫ってくる米兵の姿に、『来た』と言っては会話は途切れる。携帯電話を隠すガサガサとした雑音。少女とのたった一つの接点を切らすまいと、少女の友人たちはわずかな物音にも神経をとがらせた。事の重大さに気付いた友人らは、少女の親族らにも助けを求め、総勢約十人で沖縄署に駆け込んだ」

引用を終わります。

- ・ この様な小中学生の犯罪被害は、沖縄だけの問題ではありません。

【証拠 2】日本経済新聞のサイト、BP Net セイフティジャパンの、2005 年 7 月の記事から引用を行います：

昨今、子どもを持つ親の不安を特にかき立てているのは、事件の件数ではなく「凶悪な事件や防ぎようのない事件が目立つようになってきたこと」と、子どもの危険回避研究所の所長である横矢真理氏は語る。とりわけ、身代金ではなく性的ないたずらを目的にした略取や誘拐が目につく。

引用を終わります。

(横矢さんは、NPO「子どもの危機回避研究所」の所長で、子どもの安全に関する啓蒙・研究活動に従事されています)

- ・ この様な、子どもを狙った連れ回しや誘拐は、携帯電話によって防げると言われています。

【証拠 3】読売新聞、2008 年 12 月 5 日の記事から引用を行います：

防犯ツールとして携帯電話を持たせる親もいる。携帯電話各社のキッズケータイは、防犯ブザーを装備するなど、子供のセキュリティ対策も重視している。たとえ

ば最新機種では防犯ブザーを押すだけで、親へ自動的に通話する、位置情報を自動的にメールするといった機能がある。電車で通学する子供を持つ親にとっては、携帯電話は防犯ツールとしても重要だと言えるだろう。

引用を終わります。

- ・また、被害に遭った場合の犯人逮捕につながる迅速な通報も、携帯電話を用いれば可能です。

【証拠 4】警視庁によると、平成 21 年に受けた 110 番通報は、約 175 万件で、そのうち 94 万件、つまり 51 パーセントが携帯電話からです。

以上の通り、現状で、携帯電話は子どもを守る上での重要なツールとなっています。

- ・実際、子どもを対象とした犯罪被害は、携帯電話が一般化して以降、減少傾向にあります。

【証拠 5】

平成 21 年度の犯罪白書によれば、13 歳未満の子どもが被害者となった件数は、平成 20 年度は 2718 件と、近年のピークの平成 15 年の 4555 件と比べ、その 60 パーセントまで下がっています。

また、女の子の略取誘拐は平成 11 年の年間 84 件から、43 件へと半減しています。

B) 携帯禁止で何が変わるか

それでは次に、携帯電話の所持を禁止した場合、何が起こるのでしょうか。

- ・まず、先ほど述べました、子どもを犯罪から未然に防ぐ仕組みが働かなくなります。
- ・また子どもは、犯罪被害に遭ったとしても、助けを求めることが出来ません。

【証拠 6】

総務省の、平成 22 年度版の情報通信白書によれば、2010 年 3 月末時点で公衆電話総数は約 28 万台となっています。

これは、2000 年 3 月末時点の約 73 万台と比べれば実に 38.5%でしかありません。大体三分の一強にまで減少しています。

この様に、警察に通報する上でも、携帯電話は重要なツールですが、それが無くなってしまえば、通報自体が困難になります。犯人が逮捕されなければ、さらなる被害者も生まれます。

C) 深刻性

それでは最後に、どうして「子どもの安全を守ること」が大切か述べさせていただきます。

肯定側の政策により、子どもが誘拐に遭い、命が奪われるかもしれません。また、捕まらずに再犯を繰り返した性犯罪者により、子どもが一生かかっても癒されない心と体の傷を負うかもしれません。

子どもの命を奪い、心と体への傷を生むことにつながる肯定側の政策は、採られるべきではありません。以上で、1 つめのデメリットの説明を終えます。

■ デメリット 2 : 「連絡がつかない」

2 つ目のデメリットは、「連絡が簡単につかなくなること」です。

政策が導入されると、子どもが、親や友達と連絡が付き難くなってしまいます。

A) 現状分析

まず、友達との待ち合わせの場合です。携帯電話があるおかげで、急な待ち合わせの時間や場所の変更が可能です。

つぎに、親との連絡の場合です。たとえ迷子になっても、携帯電話があれば、すぐ連絡がつかます。携帯電話のおかげで、親と子が離ればなれになり、悲しく不安な思いをすることが無くなりました。

最後に、地震といった自然災害の場合です。地震が起きて、生き埋めになったとしても、携帯電話が手元があれば助けを求めることができます。

また、NTT ドコモなどの携帯会社は、大地震発生時には、家族の連絡用の掲示板を運用します。これにより、家族の安否をより迅速に確かめることができます。

【証拠 7】2002 年 4 月発行 岡田・松田美佐著『ケータイ学入門』の 203 ページによれば、携帯電話の研究が本格的に開始される、大きなきっかけとなったのは、

阪神大震災の被災体験だったといいます。停電しても数時間は内蔵バッテリーで稼働して、文字と音声両用をやりとりできる道具があれば、地震発生直後の避難・救助活動を迅速に行い、命を救うことが出来ただろうに、との思いが携帯電話開発者にあったそうです。

もし仮に、関東で直下型大地震が起こり、電話や交通網がずたずたになっても、携帯電話さえ持っていれば、小学生や中学生は親と連絡が取れるでしょう。

B) 携帯禁止で何が起こるか

携帯電話を禁止すれば、簡単に連絡を取ることが難しくなります。

- ・ 友達は、待ち合わせに遅れそうでも連絡できず、けんかになってしまうかもしれません。
- ・ 迷子の数も、また増えるでしょう。
- ・ 大地震などの災害が起きても、親は愛する子を探して、胸が張り裂けそうな不安を感じたまま、探し回ることになるでしょう。

C) どれだけこの問題が深刻か

友達との関係が悪くなることは、小中学生には深刻な問題です。また、こどもが迷子になれば、親は重大な不安を感じます。地震の際に親が不安のあまりこどもを探して、二次災害に遭遇し命を落とすかもしれません。以上から、このデメリットは大変深刻であると考えます。

以上で、否定側の立論を終えます。ありがとうございました。

(2928 語)

SECTION 3. 否定側立論例 (英語)

それでは今度は英語のスピーチを読んで、Disadvantage の各要素が具体的にどう説明されているか確認しましょう。

Advantage のそれと同じく、論題は「成人年齢を 18 歳に引き下げるべきだ (ただし飲酒喫煙は現状のまま)」です。ルール上は Disadvantage を 2 点まで出して良いことになっていますが、1 点だけを詳しく説明しています。

Negative Constructive Speech

We strongly believe that we SHOULD NOT lower the age of adulthood to 18.

Disadvantage: Young adults will become victims of evil-minded companies.

We would like to prove that after plan adoption, many young adults will fall into serious financial problems.

1. Present situation

First of all, let me analyze the present situation from 2 points. The following 2 points are included in the current civil laws (民法) of Japan:

(1) Cancellation of any contracts

Young adults under the age of 20 can cancel any kinds of contracts and agreements they happen to have made.

(2) Forbidden to loan money

Young adults under the age of 20 cannot use credit cards and borrow money from loan companies.

Thanks to these two protective laws, young adults under 20 are hardly involved in financial problems.

Let me quote what Mr. Shimano, the director of the National Consumer Affairs Center of Japan has said in 2008.

“The civic laws are being a huge deterrence for the loan sharks and therefore these loan companies have to wait until they turn to 20.”

So, there is no problem in the present situation.

2. Effect

After taking the plan, the legal protection which young adults are given will be completely lost. Therefore, they will be free to agree on any kind of contract and borrow money.

This increases the probability of these young people becoming a target of consumer-credit companies and evil-minded companies which force them to buy expensive products.

Now, I will explain why these young adults will be an easy target of consumer credit companies and evil-minded companies.

Young adults have two characteristics:

(1) Little knowledge of finance

They cannot fully understand the balance between their salaries and debt.

According to the report of the Ministry of Justice (2008), at present, consumer education has not been introduced in school.

Also, according to a survey done on teachers from 66 different high schools in Okinawa, 100% of them answered that consumer education is not conducted in their schools.

These evidences clearly show how young adults are ignorant of how to manage their finances.

(2) No experience to negotiate with adults

These young adults have only graduated from or are still in high schools and are new to society. They have no experience of negotiating contracts with adults, and when necessary, asking for the help of police and lawyers.

I will give you evidence of how young adults are easy targets of consumer credit companies.

According to the associations of credit cards and loan companies, 43% of their customers are in their 20s. This evidence clearly shows young adults are ignorant of how to manage their finances.

Also, they are likely to be in a serious situation: MULTIPLE DEBT.

According to a survey done by the Association of Legal Clerk of Okinawa, in 2004, 20% of those in their twenties declared bankruptcy because of multiple debts. This indicates that the number of people who will suffer from multiple debts would increase among young adults.

All these problems I have mentioned above will be caused by the affirmative plan.

3. Seriousness

Because of the financial burden of consumer credit and buying expensive products from evil-minded companies, many people's lives are endangered even now.

According to Police Report (2005), seventy-seven hundred people committed suicide because of financial problems.

The government should try to minimize the harm. And they have the responsibility to protect weak people from being targeted by bad people. Today's affirmative plan is doing the opposite.

For these reasons, we beg to oppose. Thank you. (594 words)

SECTION 4. DISADVANTAGE を作る

Lesson 11 で Advantage を考えた論題について、今度は Disadvantage の要素を埋めてみましょう。次ページに用意したシートを用いて内容を大まかに考え、Lesson11 で用いた Constructive Speech 用フォーマットを使って書いてみてください。

以上で本レッスンは終わりです。次のレッスンでは、用意した Constructive Speech を用いて練習試合に向けた準備をしていきます。

Brainstorming Sheet (Disadvantage)

■ DA [1 / 2] Signpost(見出し):

A. Uniqueness (Present situation): 現状の分析		
1)	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">{</div> <div> <p>Currently, the disadvantage does not exist because:</p> <p style="text-align: center;">or</p> <p>Currently, the disadvantage is minimized because:</p> </div> </div>	【探す必要のある証拠】
B. Link (Effect): 問題の発生過程		
1)	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">{</div> <div> <p>The affirmative plan will cause the problem as follows:</p> <p style="text-align: center;">or</p> <p>The affirmative plan will worsen the problem as follows:</p> </div> </div>	【探す必要のある証拠】
C. Significance(Seriousness): 問題の重大性		
1)	This problem is quantitatively serious because:	【探す必要のある証拠】
2)	This problem is also qualitatively serious because:	

Class() #() Name



Lesson 14.

Policy Debate

(3) Attack

Speech



Contents:

Section 1. Attack Speech の役割

Section 2. Attack Speech の内容を考える

Section 3. Attack Speech の発表練習

Section 4. Disadvantage への Attack

Section 5. 練習試合・大会への準備

SECTION 1. ATTACK SPEECH の役割

Attack Speech 練習を、3 段階で行います。試合への準備についてはここでは最低限に止め、とりあえずの型に沿った Attack Speech が出来るようになるまでを練習します。

① 基礎知識の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・ Attack Speech の役割を学びます。 ・ 実例を通じて、スピーチをする上での注意点を学びます。
② スピーチ練習	フォーマットを使い、スピーチ練習をします。
③ 試合への準備	特定の論題での試合に向けた練習をします。

1. Attack Speech の役割

前レッスンでは、立論スピーチで提示する Advantage そして Disadvantage には、それぞれ下の構造があることが望まれると言いました。反論では、それぞれの要素で欠けている点、または説明が不十分な点を指摘します。また反論においては、立論スピーチと同様に証拠の引用を行うことが期待されます。

○ Advantage の構成(復習)

- ① Inherency(Present situation): 現状の問題の分析
「現状ではこんな問題があります」
- ② Significance(Impact, Seriousness): 問題の重要性・深刻性
「この問題を解決することは、こんな理由で重要です」
- ③ Solvency(Effect): 問題がどう政策によって解決されるのか
「自分たちの政策を採用すると、この様にして問題が解決します」

○ Disadvantage の構成(復習)

- ① Uniqueness (Present situation): 現状で問題が起きていない確認
「現状に問題はありません / あっても、許容出来る程度の問題です」
- ② Link (Effect): 政策が導入されるとどう問題が生じるかの説明
「政策によって、問題が発生します / 問題が悪化します」
- ③ Significance(Impact, Seriousness): 問題の重要性・深刻性
「この発生する問題は、こんな理由で深刻です」



以下では、まず肯定側立論への反論を練習し、その後で否定側立論への反論も扱います。

SECTION 2. ATTACK SPEECH の内容を考える

1. 反論内容の確認

まずは、反論としてどのようなものがあり得るか考える練習をしてみましょう。Lesson 11 で見た、渋谷教育学園渋谷高校の立論スピーチを例に取ります。ページをさかのぼって、立論スピーチ自体を読み返してみてください。その上で、以下の反論が立論スピーチの「Inherency (現状の問題の分析)」、「Significance(問題解決の重要性)」、そして「Solvency(解決の仕組み)」の3点のうち、どれに対してのものか分類して下さい。

Attack 内容のリスト (Affirmative Constructive Speech に対して)

【Disk Track #23】

- (1) The affirmative side said that the age of adulthood is 18 in many countries. However, we do not have to follow what other countries do. We should think about what is necessary for Japan.
- (2) The affirmative side said that Japanese politics would be changed if we take their plan. However, what would be changed is very vague. We still do not know what will happen.
- (3) The affirmative side claims that we need to hear the voices from young people. However, we can do so without taking their plan. Politicians can listen to the voice of people in their 20's. People in their 20's and people from 18 to 20 must have similar opinions. So, there is no necessity to take their plan.
- (4) The affirmative side said that we need the voices from young adults. However, what is the necessity? They did not explain clearly what the necessity is, and why the status quo is not enough.
- (5) The affirmative side pointed out that people from 18 to 20 have already participated in local elections. Still, we are talking about national elections. Their examples are not relevant.

(6) The affirmative side pointed out that people from 18 to 20 have already attended the local elections. However, they did not explain what kind of opinions those young people have shown in the elections. They may have shown unreasonable opinions.

(7) The affirmative side believes that people from 18 to 20 will go to elections if they are given the right to vote. However, they do not have interest in politics. According to Dr. X, young adults are not interested in politics (「若者は政治に興味がなく投票に行かない」という趣旨の証拠が引用されたと思って下さい). We assume that people from 18 to 20 also have no interest in politics. So, they do not go to elections.

(8) The affirmative side said that young adults would go to elections and bring about good changes to politics. However, we think that is the opposite. According to Prof. X, young adults are not mature enough to make political judgments (「若者はきちんと考えて投票できない」という趣旨の証拠が引用されたと思って下さい). So, they will vote irrationally and create problems in politics.

(9) The affirmative side said that young people can vote rationally. However, we do not think so. Young people will choose people who are just popular among them. According to XXX, young people will simply choose celebrity candidates (「若者は有名人の候補者を単に選ぶ」という趣旨の証拠引用がされたと思って下さい).

(10) The affirmative side said that we need to hear the opinions of young people more. However, we should hear the voices of elderly people. If we hear more from young people, we are going to hear less from elderly people. If we spend more of the budget on young people, we are going to spend less on elderly people. The government should think about weak people. Elderly people should be prioritized before young people.

【分類例】

- Inherency: (1) (3) (4)
- Significance: (10)
- Solvency: (2) (6) (7) (8) (9)

注) Inherency と Significance は関連し合っており、この例ではそれほど厳密に区別する必要はありません。

2. 内容を考える練習

より具体的に理解するため、任意の肯定側立論スピーチを例に取り、それへの反論を考えてみましょう。ここで用いる立論スピーチは、先生か先輩にその場でスピーチしてもらうのが理想ですが、過去の大会のDVDを利用したり、スピーチの原稿を読んで代用しても良いでしょう。

録画された立論スピーチを使う場合、2018年現在では、YouTube上に様々な大会の試合がアップされています。いろいろ探してみてください。

立論スピーチの用意が出来ましたら、次のページにある「Attack Speech Brainstorming Sheet」を利用して、Attack Speechで言うべき内容のブレインストーミングを行います（立論スピーチでのAdvantageが1つであれば1枚、2つであれば2枚使います）。

まず、シートの左側に聞き取った（または読み取った）各Advantageの要素を書き取ります。そして、3～5分ほど時間を取り、どんな反論を行うか考えてシートの右側にメモを取ります。

メモを取り終わったら、コーチ役の人による実例、または大会のDVDでのAttack Speechを観てみましょう。反論すべき点は、たくさん見つかるかも知れません。しかし、Attack Speechの時間は3分間しかありません。その限られた時間内で、どの点に特に時間を割いて反論していたか注目して下さい。一般に、発生過程は立証が難しく、議論を成り立たせる上で不可欠な要素でもあるため、まずこの要素についての反論を優先して考えてみて下さい。

○ Attackで言えることの例（肯定側立論に対して）

【Inherency(現状分析)に関する反論】

- ・現状では、～という政策がすでに導入されており、問題は解決しつつある。
- ・現状では確かに問題があるが、それは相手の指摘した原因でなく、～という原因で起きている。

【Significance(重要性)に関する反論】

- ・この問題は、とてもまれな問題である。
- ・この問題は、ほんの少しの人にしか影響を与えない。
- ・この問題は、許容出来ないほどのものではない。

【Solvency(発生過程)に関する反論】

- ・政策導入によって、どうして～が生じるのか説明が足りない。
- ・政策導入によって、～が生じると言われたが、実際は…が起きてしまい、その結果問題は解決されない。

Attack Speech 準備シート (Disadvantage 対策用)

■ AD (Advantage) [1 / 2]

	Constructive Speech の内容	あなたの考える反論内容のメモ
○ Inherency(Present situation): 現状分析		
1)	The problem to be solved is (解決したい問題は以下の通り):	There is no problem under the status quo (現状に問題はない) because:
2)	<p>【補足的内容】 The problem is caused by the lack of our plan (この問題は、私たちの政策が導入されていないことで生じている) because:</p>	<p>【補足的内容】 The problem is not caused by the lack of the affirmative plan (現状で問題はあるとしても、肯定側のプランが無いことによって生じているわけではない) because:</p>
○ Significance(Impact / Seriousness): 問題の重要性		
1)	This problem is quantitatively serious (この問題は量的に深刻) because:	This problem is not quantitatively serious (この問題は量的に深刻ではない) because:
2)	This problem is also qualitatively serious (この問題は質的に深刻) because:	This problem is not qualitatively serious (この問題は質的に深刻ではない) because:
○ Solvency(Effect): 問題がどう政策によって解決されるのか		
1)	Our proposal is feasible (私たちの政策は実行可能) because:	Their plan is not feasible (彼らの政策案は実行可能ではない) because:
2)	Our proposal can solve the problem as follows(私たちの政策は、以下の通りに問題を解決します).	Their plan cannot solve the problem (彼らの政策は、問題を解決しません) because:

Class() #() Name

SECTION 3. ATTACK SPEECH の発表練習

1. 発表用フォーマット

反論の内容を考えたら、次には発表の練習をします。確認した実例と内容が似通ってしまっても構いませんので、先ほど自分で用意したメモを利用して発表してみましょう。

次ページの「Attack Speech 発表用フォーマット」を参考にして、Advantage への反論を整理し、発表に備えましょう。以下で簡単にそのフォーマットについて解説します。

- ① As [present situation analysis / significance / effect], they said that
- ② However, this is [not true / etc.] because
- ③ I will give you one piece of evidence: (別紙の証拠カードの引用)
- ④ Therefore, AD1 (DA1) [is weakly supported / does not stand].

このフォーマットは、Lesson 7 で導入した Summary & Refute のそれと似ています。まず、①で相手の議論のどの点に反論をするか、明確にします。このディベート形式では、現状分析、プラン導入後の変化、そして問題の深刻性という構成で議論が提示されます。それで、それらの要素のどれに反論をするのか確認することで、ジャッジにより伝わりやすくなります。

次に②で、その確認した点の何が悪いのか説明します。Lesson5 で練習した反論のフォーマットと少し異なり、“However, this is ~”の後では、[very vague (曖昧である) / very doubtful (疑わしい) / not true (正しくない) / not always true(必ずしもそうとは限らない) / not relevant (関係ない)] のどれか適切な語句を使います（これらの語句は、使いやすいので便宜上ここで選ばれています。使わなければならない、ということではありません）。

反論のスピーチであっても、証拠の引用が期待されます。③の部分でぜひ使ってください（初めて練習する際は、リサーチの時間もないので、もちろん省略して構いません）。そして最後に結論として、④で「このAD はとても弱い / 成り立たない」と述べます。この最後の一言があると、反論と反論の切れ目もはっきりします。

2. 発表練習

初めは、時間制限を設けず、各人 1 つの反論内容で発表します。練習への参加者が多ければ、グループに割り振り、それぞれで発表させても良いでしょう。全員の発表が終わった後で、特に誰の反論が最も強力であったか、考えてみて下さい。また、余裕があれば時間を 2 分にして、各自複数の反論をさせて下さい。

Attack Speech 発表用フォーマット (肯定・否定 共用)

■ My name is _____. Let me start [negative / affirmative] attack speech.

■ I have [_____] attacks. [← 反論する項目の数を言う。3 から 4 つ程度]

■ First, let me attack AD1 (DA1).

As [present situation analysis / significance / effect], they said that _____

However, this is { very vague (曖昧である) / very doubtful (疑わしい) / not true (正しくない)
not always true (必ずしもそうとは限らない) / not relevant (関係ない) }
(上の表現のどれかに当てはめると考えやすくなります)

because _____

【必要であれば】 I will give you one piece of evidence: (別紙の証拠カードの引用)

Therefore, AD1 (DA1) [is weakly supported / does not stand (← どちらでも構いません)].

(AD1 または DA1 に対して他に反論があれば、同様に上のフォーマットに従い反論する)

■ Then, let me attack AD2 (DA2).

As [present situation analysis / significance / effect], they said that _____

However, this is [very vague / very doubtful / not true / not always true / not relevant]

because _____

【必要であれば】 I will give you one piece of evidence: (別紙の証拠カードの引用)

Therefore, AD2 (DA2) [is weakly supported / does not stand].

(AD2 または DA2 に対して他に反論があれば、同様に上のフォーマットに従い反論する)

(時間が余ってしまった場合は、反論の内容を繰り返す)

This is the end of my attack speech. Thank you.

Class() # () Name _____

SECTION 4. DISADVANTAGE への ATTACK SPEECH

否定側立論への反論は、これまでに学んだ肯定側立論への反論とほぼ変わりません。ただし、反論で言うことの可能な内容が、少し変化します（現状分析に関する反論に関して）。以下を見て確認して下さい。

○ Attack で言えることの例（否定側立論に対して）

【現状分析に関する反論】

- ・問題への現状での取り組みは不十分で、悪化し続けている。
- ・問題はすでに存在し、プラン導入以外の原因で発生している。

【発生過程に関する反論】

- ・政策導入によって、どうして～が生じるのか説明が足りない。
- ・政策導入によって、～が生じると言われたが、実際は…が起き、その結果問題は発生しない。

【重要性に関する反論】

- ・この問題は、とてもまれな問題である。
- ・この問題は、ほんの少しの人にしか影響を与えない。
- ・この問題は、許容出来ないほどのものではない。

それでは、任意の否定側立論を例に取り、これまで行ったとおりに反論の練習をして下さい。先ほど利用した試合の動画を用いて、今度は否定側立論への反論を考えてみましょう。反論内容をブレインストーミングする時には、次ページのシートを利用して下さい。

反論内容が決まったら、先ほどと同じ発表用シートを用いて、スピーチ練習をしましょう。その上で、実際の試合の Attack Speech と比べてみましょう。

Attack Speech 準備シート (Disadvantage 対策用)

■ DA (Disadvantage) [1 / 2]

	Constructive speech の内容	あなたの考える反論内容のメモ
○ Uniqueness (Present situation): 現状の分析		
1)	There is no problem or it is minimized now (現状では問題が無い、最低限に抑えられている):	<ul style="list-style-type: none"> ・ This problem already exists (問題はすでに存在している) because: ・ The problem is getting worse even under the current situation (問題は現状でも悪化している) because:
○ Link (Effect): 問題の発生過程		
1)	The affirmative plan will cause the problem or worsen the problem as follows (肯定側の政策は、以下の通りに問題を生じさせるか、悪化させる):	<ul style="list-style-type: none"> ・ Our plan will not create the problem (私たちの政策は問題を発生させない) because: ・ Our plan will not worsen the situation (私たちの政策は問題を悪化させない) because:
○ Significance(Seriousness): 問題の重大性		
1)	This problem is quantitatively serious (この問題は質的に深刻である)because:	<ul style="list-style-type: none"> ・ This problem is not quantitatively serious (この問題は量的に深刻ではない) because:
2)	This problem is also qualitatively serious (この問題は量的に深刻である) because:	<ul style="list-style-type: none"> ・ Also, this problem is not qualitatively serious (この問題は質的に深刻ではない) because:

Class() #() Name

SECTION 5. 練習試合・大会への準備

1. Attack Speech への Cross-examination

形式に慣れたら、今度は Attack Speech に対しての Cross-examination をしてみましょう。練習の中で Cross-examination を受けることで、どのような証拠があればより効果的な反論が出来るようになるのか、より明確になります。

2. Attack Speech の原稿の用意

大会に向けて Attack Speech を練習する場合、まず立論スピーチを用意することから始まります。自分たちの立論スピーチを書き直すうちに、どの点が弱いのか分かってくると思います。その自分たちの立論の弱い点をきちんと指摘できるようになれば、相手チームが同じ内容の議論を用意してきた場合、的確に反論が出来るようになります。

また、自分たちが立論スピーチに取り入れなかった Disadvantage と Advantage についてもそれぞれ2～3程度選び、Attack Speech を予め考え、必要な証拠を探しておきます。

練習試合や都道府県大会ではあることですが、相手の立論に対し、内容がずれているにもかかわらず、自分たちの用意した原稿をただ読み上げ、的外れな反論となることがあります。Attack Speech の予想の幅が狭い場合、試合で初めて聞く相手の立論に上手く適応した反論を用意できないことがあります。そのような事態を避けるためにも、即興で対応出来る能力を日頃から訓練しておく必要があります。

ただ、特定の論題についての練習を重ねて行けば、次第に即興で反論を考えることはほとんど無くなると思われます。1つの大会に出場するまでには、練習試合を20回ほど経験しているのが望ましいとされます。その頃までになると、相手の立論に対して何を反論するべきか、その場で考えずに自動的に分かるようになります。

即興性の高いパラメンタリーディベートとは異なり、このスタイルのディベートでは、よほど高い能力がない限り、その場で反論内容をゼロから考えていれば、勝つことは難しいでしょう。強いチームは、まるでテニスカ卓球の試合をしているかのように、相手の立論に対して何を言ったらよいか、自動的に分かり、関連する証拠資料をすぐ出せるまでになっています。



Lesson 15.

Policy Debate (4)

Defense Speech



Contents:

Section 1. Defense Speech の理解

Section 2. Defense Speech の内容を考える

Section 3. Defense Speech の発表練習

SECTION 1. DEFENSE SPEECH の理解

1. Defense Speech の準備方法

相手チームがどのような立論スピーチを用意しているか分からないため、Attack Speech では臨機応変の対応が求められます（この理由で、特に英語能力の高い生徒が Attack Speech を担当することが多いようです）。その一方で、反論に対する立て直しの役割を持つ Defense Speech では、試合で何を言うことになるか、ほぼ予想が出来ます。

どんなに時間をかけ用意した Constructive Speech でも、何らかの穴が残っているはずです。「こんな証拠があればいい」と分かっているにもかかわらず、結局見つけることが出来なかったかもしれません。プランがどの様に問題を解決するのか、生じさせるのか、その過程が多少怪しいことが自覚出来ているかもしれません。数ヶ月間も練習を続ければ、自分たちの立論スピーチの欠点を、誰よりも把握できているはずです。

これは逆に考えれば、相手が Attack Speech で何を言うことになるか、手に取るように分かっているということになります。実際の試合では、相手が指摘してきた立論の問題点に対して、用意した証拠付きのメモを読み上げて対応することが出来ます。これを可能にするための準備が、Defense Speech の準備になります。

2. Defense Speech の内容の例

Lesson14 では、渋谷教育学園渋谷高校英語ディベート部が作成した肯定側の立論スピーチを読み返し、考えられる反論例をリストで示しました。今度は、それら反論例に対して、どう言い返すべきか、どんな証拠を示せば良いか、例を読んで考えましょう。

以下の Defense Speech の内容例を読んで下さい。それぞれ、議論を立て直すことにどれだけ成功しているのでしょうか。

Defense Speech 用 リスト (Affirmative用)

【Disk Track #24】

(1) They said that we do not have to imitate other countries and should think what is necessary for Japan. However, we are not simply saying that we should imitate other countries. We are saying that 166 countries having 18 years as the age of adulthood is evidence that our plan is feasible and does not cause much harm. We have also shown you the clear merits of our plan in our constructive speech.

(2) They said that after plan adoption, what would be changed is very vague. Then, let me tell you again. If we adopt our plan, people from 18 to 20 would have the right to vote. We will have 2.7 million new young voters. So, politicians would introduce policies for young adults in order to get their votes.

Let me give you some evidence of how much influence this 2.7 million new votes can have by referring to the result of the House of Councilors elections.

[Evidence Card] According to the website of Nikkei Newspaper, at the House of Councilors election in 2004, Social Democratic Party, or 社民党, which is one of the major political parties of Japan, got 2.9 million votes for proportional representation. So, they could get 3 seats in the Upper House.

[Evidence Card] According to the web site of Asahi Newspaper, at the House of Councilors election in 2007, the same party got 2.6 million votes for proportional representation and obtained 2 seats in the Upper House.

Those 5 seats are the only seats the Social Democratic Party has in the Upper House now. If it had not been for the 2.9 or 2.6 million votes, the Social Democratic Party could not have got any seats in the House of the Councilors. The party would have disappeared.

Therefore, this evidence clearly shows that the 2.7 million votes coming from those who are 18 or 19 have strong impact which is enough to determine the existence of one political party, which can directly influence the politics of Japan. So, we can expect a clear difference in politics after plan adoption.

(3) They said that because people from 18 to 20 and people in 20's have similar opinions, there is no necessity to take our plan. However, because most of the people from 18 to 20 are students, they will focus more on education, such as the educational expenses. On the other hand, people in 20's focus more on employment. Their priorities are different.

[Evidence Card] According to Japanese Communist Party (2008), "The educational expenses put heavy financial burden on students. Every year, about ten thousand university students leave school for financial reasons. Also, many high school students decide not to go to university because of the expensive tuition fee."

Because of this, we can say that people who are 18 or 19 have uniquely strong opinions on education.

(4) They said that we did not explain the necessity of taking this plan and why the status quo is not enough. So, let me explain. Under the status quo, the number of young adults is much less than that of the elderly people. Because elderly people are the majority, politicians make policies for elderly to get votes from them. As a result, the problems of budget deficit and pension systems, which would put a huge burden on future generation, are left untouched.

[Evidence Card] According to Takahasi, the vice president of NPO Network Rights (2008), the younger generation in Japan is unfairly treated by the government in terms of a future tax burden, national pension, and the amount of social welfare they can receive. It is also pointed out that Japan spends the least amount of money for education in comparison to other OECD countries.

Even though there are these problems, young peoples' political influence is disproportionally small. This is why there is the necessity to change the status quo.

(5) They said that our examples of local elections are not relevant, but this is not true. The national election deals with the issues which are important for the society in which they live. Also, media coverage is intense at national elections, so they have the chance to gain interest. We do not know why the young adults who vote at local elections would not vote at national elections.

(6) If the government gives the right to vote to young people, they will become interested in politics

[Evidence Card] Professor Munei of University of Osaka said in an article of Nikkei Newspaper published on December 4th, 2008 that, "If the government gives the right to vote to young adults, they will become interested in politics and start to study politics." (立論スピーチでも使用したカード)

(7) They said that young adults do not have interest in politics. However, when people from 18 to 20 were given the rights to vote at local elections or referendum, the turnout was about 90%.

[Evidence] (約 100 の市町村での、実際に投票権を与えられた 18 から 19 の若者の投票率を示す一覧表)

(8) We have shown you the counter evidence to the attack already in our constructive speech.

[Evidence Card] (6 番目の Defense で用いたのと同じ証拠)

(9) They said that young adults cannot vote rationally and only choose candidates who are famous. However, this is unlikely. Firstly, we have explained in our constructive speech that young people will have interest in politics and think carefully when they vote.

[Evidence Card] (6 番目の Defense で用いたのと同じ証拠)

Also, even if people choose famous candidates, they are not necessarily bad politicians. For example, please think about Mr. Higashikokubaru (東国原) of Miyazaki Prefecture, Mr. Schwarzenegger of the state of California, and Mr. Hashimoto of Osaka Prefecture. We cannot deny that their popularity helped them win an election. However, they are doing a good job for the citizens.

(10) They said that we should think about elderly people because they are the weak people in our society. We do not deny that we should help elderly people, but we are saying that we should not ignore young adults who are as disadvantaged as elderly people. Young adults are either students or new workers, so they cannot earn much money. Therefore, it is fair to say that we should hear not only the voices of elderly people but also those of young adults.

(1094 words)

SECTION 2. DEFENSE SPEECH の内容を考える

以下では、Lesson 13 で見た渋谷高校英語ディベート部の否定側立論への Attack のリストを示します。それぞれについて、どのような内容の Defense Speech が可能でしょうか。自分たちで考えた後で、続く Defense Speech の内容例と比べてみて下さい。

Attack の内容リスト (Negative Constructive Speech に対して)

(それぞれへの Defense Speech を考える際には、スペースに書き込んで下さい) 【Disk Track #25】

(1) They said that young people are easy target of “evil-minded companies”.

However, we do not know what exactly the “evil-minded companies” are.

(2) They said that the people from 18 to 20 will be forced to buy expensive products and have financial problems. However, we have the “cooling-off system”. So, the problem would not be serious.

(3) The negative side said that young people would borrow too much money from loan companies. However, this is not likely to happen. Loan-companies check how much income a person has. For instance, university students can have credit card now. However, the amount of money one can borrow using the card is about 20,000 because they do not have much income. The consumer credit problem is not likely to happen.

(4) The negative side said that the number of young people who have financial problems would increase. However, they didn't tell us how many. They could not explain how serious that problem is.

(5) They said that people from 18 to 20 would have financial problems. Then, I want to remind you that the age of adulthood is 18 all over the world. However, there are few problems reported in other countries because of this. Therefore, the problem is not likely to happen or be so serious.

(6) The negative side said that the number of young adults who have financial problems would increase. However, we believe that if it were to happen, high school teachers would try to educate students about financial management and how to avoid such consumer troubles. So, the problem will be not so serious.

(7) They have shown us only the examples of Okinawa. We are not sure what would happen in other places in Japan.

- 以下より、上の Attack に対する Defense Speech の内容例が始まります。Defense Speech で何を言うべきか、一度自分で考えた後で、読み進めて下さい。

Defense Speech 用ノート (Negative用)

【Disk Track #26】

(1) They questioned what “evil-minded companies” are. So, let me explain again. Evil-minded companies, or 悪徳業者 in Japanese are the companies that force people to buy expensive products.

I will give you one example of how young adults are easy targets of such companies.

[Evidence Card] According to Citizen Life Center, which is an independent administration corporation, (2004), 91% of the victims of “selling through dating”, or デート商法 in Japanese are in their twenties. Furthermore, people who are 20 years old account for 28% of all victims. So, we can say that people who have just become adults are highly likely to be victimized.

(2) They said that because of the “cooling-off system”, the problem will not be serious. However, it is not true. The cancellation of a contract using the “cooling-off system” is possible only for two weeks or 8 days after the purchase. So, the problem is still serious.

(3) They said that the consumer-credit problem is not likely to happen because loan-companies check how much income a person makes in order to make sure that they can repay. However, this is not always true because loan sharks will loan so much money even when their customers do not have much income. When it turns out that one of their customers cannot repay, what the company usually does is to force their parents to repay.

(4) They said we did not show how much increase we can expect in the number of people who have financial problems. Of course, we cannot give you any specific numbers because it is about the future. Still, as we have argued, it is highly likely that they will be victimized.

[Evidence Card] According to the National Organization of Consumer Credit Victims, the number of people who borrow money from loan-sharks is 14 million Also, 2.3 million of them are in multiple debts and say that they do not know whom to ask for help.

Even those who are over 20 are suffering from the problem now. As the people from 18 to 20 have less knowledge and experience, the possibility of getting into a problem is high.

(5) They said that the kinds of problem we have argued are not reported in the countries which have already lowered the age of adulthood. However, even under the status quo in Japan, there are so many people who have financial problems.

[Evidence] (Defense 4 のものと同じ)

(6) They said that high school teachers will educate students on finance and their legal rights. However, there is no assurance of their effectiveness.

(7) As for the lack of consumer education, they said that we have shown only the example taken from Okinawa. So, let me give you another piece of evidence.

[Evidence Card] According to the report of Ministry of Justice (2008), at present, consumer education has not been introduced in school.

(488 words)

SECTION 3. DEFENSE SPEECH の発表練習

1. 発表用フォーマット

Defense Speech のフォーマットを次のページに例示しました。このスピーチで特に重要であるのは、相手のどの Attack に関して議論の立て直しをするのかははっきりと述べることです。また、相手の反論内容を的確に要約することが求められます。

フォーマットでは、まず自分たちのどの議論の、どの要素に関して、相手が何を言ったのか確認します。その後で、相手の指摘が正しくない理由を述べます。加えて、補足的な説明か、望ましくはさらなる証拠を提示します。この繰り返しが Defense Speech の中身となります。

任意の試合のビデオを用意し（これまで用いてきたのと同じのものが良いでしょう）、否定側の立論と、それへの Attack まで聞いてみて下さい。その後で、フォーマットを利用して、自分たちが考えた Defense Speech を発表しましょう。発表が終わったら、実際の Defense Speech を見てどの点で異なっているか、比較して下さい。

2. 試合に向けた練習

試合を通じて練習する前に、Defense の練習のみを集中して行いましょう。複数人が 1 つずつ反論を行い、Defense 役の 1 人がそれらについて立て直しを行います。どれだけ素早く言い返しが出来るようになったかに応じて、以下の活動をしてみてください。

- ① 作成済みの Attack 予想リストの各項目を、他の人が 1 つ読み上げる。Defense 役の人は、それに対する立て直しをする。これを繰り返す。
- ② ランダムに選んだ複数個を一度に読み、Defense 役の者はそれらをまとめて言い返す。
- ③ Attack 予想リストの各項目の表現を言い換えて、他の人が 1 つ読み上げる。Defense 役の人は、それに対する立て直しをする。これを繰り返す。
- ④ ランダムに選んだ複数個を表現を言い換えて、一度に読み、Defense 役の者はそれらをまとめて言い返す。

上記の発表練習を繰り返すと、さらなる証拠が必要となる場所も分かって来ると思います。また、立論自体の手直しが必要な場所も分かって来ると思います。立論スピーチを作成することと、Defense を行うことは、不可分につながっています（これ故に、立論を書く上で中心的な役割を果たした人、または立論の書き直しを担当する人が Defense 役になると最も効率が良いでしょう）。また、他のポジションに着く人も、必ず Defense 役を一度は経験し、試合中に助言が出来るようにして下さい。

Defense Speech 発表用フォーマット（肯定・否定 共用）

■ My name is Let me start [negative / affirmative] defense speech.

■ They gave us [.....] attacks. [←反論された数を言う。]

■ First, on [AD / DA] [1 / 2]

They attacked our explanation on [present situation / significance / effect],
by saying that

- However, this is not true because
- Then, I will give you further [explanation / evidence].

Therefore, [AD / DA] [1 / 2] [is strongly supported / still stands] (←どちらでも).

■ Second, on [AD / DA] [1 / 2]

They attacked our explanation on [present situation / significance / effect],
by saying that

- However, this is not true because
- Then, I will give you further [explanation / evidence].

Therefore, [AD / DA] [1 / 2] [is strongly supported / still stands]. (←どちらでも)

(他に反論があれば、同様に上のフォーマットに従い反論する)

This is the end of our defense speech. Thank you.



Lesson 16.

Policy Debate (5)

Summary Speech



Contents:

- Section 1. 全国大会(Policy Debate)の試合形式
- Section 2. Summary Speech の理解
- Section 3. Summary Speech の練習
- Section 4. Judging について
- Section 5. 大会に向けた準備
- Section 6. ディベートを続ける人へ

SECTION 1. 全国大会(POLICY DEBATE)の試合形式

1. 大会出場に向けた準備

これまで、Policy Debate の基本的なフォーマットを体験し、何らかの論題に対して Advantage と Disadvantage の最初のドラフトが完成していると思います。このレッスンでは、Policy Debate の高校生全国大会に出場することを目的に、これまで導入していなかった、Summary Speech を練習します。

また、大会出場までは、練習試合を通じて以下の作業を繰り返すことになります：

- ① 新しく必要となる証拠を把握し、必要があれば Advantage または Disadvantage を別の物に変える。
- ② 予想される対戦相手の Advantage または Disadvantage を整理して、それぞれへの反論を用意しておく。反論の上で必要となる証拠を探す。
- ③ 予想される自分たちの Advantage または Disadvantage を整理して、それぞれへの言い返しを用意しておく。また、その上で必要となる証拠を探す。

2. 全国大会のディベート形式

次ページの表にまとめられた、試合の流れを見て下さい。これまでのレッスンで導入した練習試合用のフォーマットとの違いは、各スピーチの制限時間以外に、以下の 2 点があります：

- ・ Summary Speech という、試合全体を総括してどうして自分たちのチームが勝ったのか説明する時間がある。
- ・ Constructive Speech の後に加え、Attack Speech の後に Cross-examination がある。

また参考として、「プラン(Plan)」という肯定側が論題をより具体化させた政策案について説明します。高校生大会で与えられる論題は、改めて定義をする必要がないように、ある程度具体的なものが選ばれます。しかしながら、「小学校で英語の授業を必修化するべきだ」という論題が与えられた場合は、どれだけの時間数で、どの様な授業内容を、どんな先生が教えるのか、細部の設定がされなければ肯定側と否定側の議論がかみ合わなくなるでしょう。そのために、肯定側が Constructive Speech の冒頭で、その説明をすることが期待されます。どのような定義であれば許容されるかは、全国大会では運営者側から大まかな指針が出されます。それに沿ったプランでなければ反則負けになる場合もあるため、必ず確認をして下さい。

○ Policy Debate 全国高校生大会(HEnDA)のフォーマット

Affirmative Side(肯定側)	Negative Side(否定側)	Time
(1) Constructive Speech (Plan と共に Advantage を 1~2 つ提示)		4 分
One minute preparation (1 分間の準備時間)		
	(2) Cross-examination (肯定側に質疑応答)	2 分
	(3) Constructive Speech (Disadvantage を 1~2 つ提示)	4 分
One minute preparation (1 分間の準備時間)		
(4) Cross-examination (否定側に質疑応答)		2 分
Two minute preparation (2 分間の準備時間)		
	(5) Attack Speech (肯定側の Advantage に反論)	3 分
(6) Cross-examination (否定側に質疑応答)		2 分
(7) Attack Speech (否定側の Disadvantage に反論)		3 分
	(8) Cross-examination (肯定側に質疑応答)	2 分
Two minute preparation (2 分間の準備時間)		
(9) Defense Speech (否定側の反論に対して立て直し)		3 分
	(10) Defense Speech (肯定側の反論に対して立て直し)	3 分
Two minute preparation (2 分間の準備時間)		
(11) Summary Speech (試合をまとめ、自チームの優位を証明)		3 分
	(12) Summary Speech (試合をまとめ、自チームの優位を主張)	3 分
合計 42 分		

*2018 年 3 月現在の形式です。

- ◇ 1 チーム 4 人が基本で、それぞれ Constructive, Attack, Defense, Summary のスピーチを担当します。
Cross-examination は、相手の Constructive speech に対しては Summary 担当者が、相手の Attack speech に対しては Defense 担当者が行います。

SECTION 2. SUMMARY SPEECH の理解

1. Summary Speech の構成

Summary Speech の役割は、パラメンタリーディベートでの Reply Speech と同様に、ジャッジの代わりに試合の判定をする、というものです(もちろん、自分たちが勝っているという前提で話します)。その為に、大まかに以下の3つの構成で話すことになります：

○ Summary Speech の構成

- ① Defense に対する再反論 (出来るだけ簡単に)
- ② これまでの試合の流れの確認
 - a) どうして自分たちの出した Advantage(または Disadvantage)が、相手の反論を経ても依然として強いものであるのか。
 - b) どうして相手チームの Disadvantage(または Advantage)は、試合の流れを経て弱いものになったのか。
- ③ Advantage と Disadvantage の価値の比較 (Value Comparison)
Advantage と Disadvantage を比較した場合、どちらの方が結局はより重視されるべきか。



Summary Speech では、相手チームの Defense Speech への反論が行えます(この点、パラメンタリーディベートの Reply Speech とは異なります。時間の短い Whip Speech と捉えれば良いかも知れません)。出来るだけ短く、どうしても言うべきことだけ言って下さい(30秒から、長くて1分で納めるのが目安です)。または、次の試合の流れの確認の中に再反論を含めても良いでしょう。

次に、Summary Speech では試合の流れを確認します。自分たちのチームが優れていたことを示すための確認であり、それを説明する上で特に重要であった試合上のやりとりを確認します(例えば、相手が必要な証拠を提示できなかったなど)。通例は、Advantage または Disadvantage ごとに、どうしてそれが試合を通じて残っているのか、あるいはほとんど残っていないのか話をします。

次の要素として、すでにそれぞれ評価をした肯定側の Advantage と否定側の Disadvantage を比べてみた場合、どちらの方がより大きいのか比較をします。この「価値の比較(Value Comparison)」について下に詳しく説明します。

2. 価値の比較 (Value Comparison)について

何かを比べるためには、何らかの物差しが必要です。その物差しを何にするかは、スピーカーに任されています。例えば、以下の観点が物差しとして使いやすいでしょう：

- 1) Quality (もたらされる利益または不利益は、どのような性質か)
- 2) Quantity (どれだけの人が、利益または不利益を受けるのか)
- 3) Probability (メリット、デメリットのどちらがより発生する確率が高いか)
- 4) Time span (メリット、デメリットが長期的・短期的なものか)

例えば、死刑制度の廃止の是非に関するディベートの試合で、「誤審により死刑になる人の命を救える」という議論と、「終身刑になる人を養うために新たに税金が使われる」という議論が出たとします。この場合、問題の質(Quality)を比較して、「人の命はお金よりも重く、また一度奪われては取り返すことが出来ない。それ故に、前者の価値が優先される」と言えるでしょう。

また、原子力発電所を廃止しようという論題で、肯定側が「放射能事故の懸念が無くなることによる、安全性の向上」を議論として出し、その一方で否定側が「電力不足による経済活動の低迷」を Disadvantage として提示したとします。その場合では、経済活動が円滑に行われる前提には、生命の安全が必要であるため、安全性を優先するべきだと言えるでしょう。

次に、数量的な比較をする場合について、成人年齢を 18 歳に引き下げるか否かという論題で例示します。Advantage として「犯罪を行えば成人として処罰されるようになるので、18～19 歳の間で凶悪犯罪が減る」という議論が、Disadvantage として「民法上は商品購入や消費者金融の契約が新しく結べるようになる 18～19 歳の間で、経済上のトラブルに巻き込まれる人が増加する」という議論が出されたとします。凶悪犯罪の被害者の数と、新しくトラブルに巻き込まれると予想される若者の数を比べることで、どちらがより重大な問題であるか比べることが出来ます。

3 番目の可能性ですが、単純に Advantage と Disadvantage のどちらの方が起こる可能性が高いか比較を行います。例えば、ミサイル防衛システムを日本が導入するか否かの論題で、肯定側が「いつか飛んでくる巨大隕石を打ち落とすために必要」と主張し、否定側が「近隣諸国との軍拡競争が起こる」という議論を出したとします。この場合、否定側は比較の基準として双方が主張するような事態が実際に起こる可能性を比較の観点として出すことが考えられます。

また、4 番目の時間の幅に関してですが、一般的に自分たちのメリットまたはデメリットは長期的な幅のものであり、相手のそれは短期的・一時的なものであると特徴づけることです。例えば、日本政府が労働力確保のために移民を受け入れた場合、短期的には労働力が確保され経

済発展を促すが、長期的にはその高齢化した移民への社会保障費増大により、収支はマイナスになる、というものです。

この価値の比較ですが、高校生の英語ディベート全国大会では、よほど練習したチーム同士の試合でない限り、あまり効果的にスピーチで用いられてはいない様子です。自分の知る限りでは、試合後のジャッジの勝敗説明で、Summary Speech で行われた価値の比較をもとに、勝敗が決められることは殆どありませんでした。

まずは、試合の流れをきちんと確認させるスピーチを行うことを心がけ、無理に「価値の比較」を3分間のスピーチの中に取り入れようとはしない方が良いでしょう。ただし、その有用性や具体例について知りたい場合は、日本語の高校生ディベート大会の試合を見学してみてください。そこでは価値の比較が行われ、実際に勝敗を判断する上で重要な役割を果たしていることが分かるでしょう。

3. スピーチ例で構成を確認

構成を理解した次には、Summary Speech の実例を見てみましょう。ただし、以下に示すのは何らかの試合で実際に話された内容を書き起こしたスクリプトではありません。渋谷高校英語ディベート部のSummary Speech 担当者が、おおよそこの様な内容で話すことが多かった、という記憶を元に再構成したものです。論題は「成人年齢を18歳に引き下げる」で、肯定側のスピーチです（Defense Speech への再反論は行われていません）。

Affirmative Summary Speech

【CD Track #27】

I will now start the affirmative summary speech.

First, let me confirm why our advantage is still strong.

As for the first advantage, the negative side pointed out in their attack speech that we could not show the clear process of how the 2.7 million new votes can influence politics.

However, in our defense speech, we have clearly shown you the evidence by giving you the case of the Social Democratic Party. 2.7 million votes are sufficient to have a political party in the Diet.

Also, they have stated that hearing the opinions of the young generation is less

important than hearing that of elderly people.

Our defense speaker successfully responded to the claim by pointing out that the negative side did not give the evidence why it is so. Moreover, our defense speaker has confirmed that the voices of the young adults are disproportionately disregarded by the politicians now.

Therefore, our advantage still stands.

On the other hand, we have shown you how the disadvantages are weak.

Their first disadvantage was that the young adults would vote for popular candidates and the quality of the politicians will get worse.

However, we questioned what they meant by “the quality of the politicians”, but they could not answer the question. Also, we gave you numerous pieces of evidence which show how young voters will think rationally.

The only evidence they have shown is that the turnout of voters in their 20s is low now. We cannot see what the relevancy of this evidence is.

Therefore, their first disadvantage is weakly supported.

Furthermore, as for the second disadvantage, their claim that young criminals will be given fewer chances of rehabilitation into society (注 これまで少年院に送られていた 18 歳から 19 歳の罪を犯した者が、成人として通常の刑務所に送られ更正の機会を失うという内容) is also weak.

We have questioned why the rehabilitation program in the reformatory is good and the one in the jail is bad. We questioned what the young criminals are doing right now in the reformatory and why the rehabilitation program at the jail is bad for them. Still, they could not give us any convincing answers.

Also, our attack speaker suggested that the rehabilitation program offered at the jail may be better for 18 or 19 year olds and the negative defense speaker could not respond to that.

Therefore, their second disadvantage is also poorly supported.

Finally, let me compare the values from the aspect of quantity. If our plan is taken, all young adults will benefit from it because the politicians will introduce policies which benefit the younger generation.

On the other hand, the number of young adults who do not vote rationally is expected to be quite small, so the number of people who are negatively affected is also small. Also, even if our plan gives less rehabilitation opportunities to young criminals, the number of young criminals being affected is also quite small.

Therefore, our plan will provide benefits to much more of the Japanese population. So, our advantages overwhelm the disadvantages.

For all these reasons, we have won this round. Thank you.

(500 words 3分の制限時間ではちょっと終わらない量です)

SECTION 3. SUMMARY SPEECH の練習

1. Summary Speech の練習

Summary Speech を練習する機会は、とても限られています。対戦相手の話を踏まえてスピーチを作らなければならないため、実際の試合を通じての練習がとても重要になります。とはいえ、練習試合にて実際に Summary Speech をする以前に、例えば以下の練習が出来ます：

- ・ Lesson 3 で練習した、スピーチの要約練習を行う。
- ・ 過去の試合の DVD を観て、「自分ならこう言う」という事例研究をする。
- ・ (部活で練習をする場合) 先輩に Summary Speech を担当して貰い、実例を見せて貰う。

2. Summary Speech のフォーマット

事前の練習を踏まえて (あるいは平行して)、次のページのフォーマットを使ってスピーチを用意してみてください。出来れば試合の動画を用意して、Summary Speech の直前まで観て続きを考えます。

初めは時間制限を設けず、全部の要素 (相手への再反論、試合の流れの確認、価値の比較) を盛り込んで練習します。その後スピーチに制限時間を設け、あまり重要でない情報を省略します。Summary Speech で大切なのは、時間配分です。何が重要であり、何がそうでないのか判断してスピーチ内容を調整できるようになって、初めて Summary Speech の時間を有効に使うことが出来ます。

Summary Speech 発表用フォーマット (肯定・否定 共用)

■ My name is Let me start [negative / affirmative] summary speech.

■ Before I summarize, let me respond to their defense speech. 【相手への再反論】

On [AD / DA] [1 / 2], they defended their [status quo analysis/ significance / effect]
by saying that

However, this explanation is not enough because

【必要であれば】 I will give you one piece of evidence: (別紙の証拠カードの引用)

Therefore, [AD / DA] [1 / 2] [is weakly supported /does not stand].

(他に再反論があれば、同様に上のフォーマットに従い反論する)

■ Next, let me summarize this round.

■ First, let me show you why our [ADs / DAs] still stand. 【自分たちの議論の確認】

They attacked our [AD / DA] 1 by saying that

However, we successfully defended by [saying / showing the evidence] that

Therefore, our [AD / DA] 1 is still strong.

(このフォーマットを使い、2 番目の AD または DA についてまとめて下さい)

■ Then, let me confirm how we have weakened their [ADs / DAs]. 【相手の議論の確認】

We attacked their [AD / DA] 1 by saying that

On this point, they failed to defend because

Therefore, [AD / DA] 1 is very weakly supported.

(このフォーマットを使い、2 番目の AD または DA についてまとめて下さい)

- Finally, let me compare the values from the aspect of
[quantity / quality / probability / time span]. 【価値の比較】

【Quantity で比較する場合】

- Our (their) plan will positively affect (どの様な人に影響を与えるか) .
And the number of such people will be about (その人数) .
- On the other hand, our (their) plan will negatively affect (どの様な人に影響を与えるか) .
And the number of such people will be about (その人数) .
- Therefore, this plan will affect more people [positively / negatively] .

【Quality で比較する場合】

- Our strongest argument, [AD / DA] [1 / 2] is about (「人命救助」など) .
- On the other hand, their [DA / AD] [1 / 2] is about (お金の節約) など) .
- Because (「命はお金に換えることはできない」 など) ,
our [AD / DA] is qualitatively much more important.

【Probability で比較する場合】

- Let's compare the probability of [AD / DA] [1 / 2] and [DA / AD] [1 / 2] .
- Our argument, [AD / DA] [1 / 2] is highly likely to happen because .
- On the other hand, their [DA / AD] [1 / 2] is less likely to happen because .
- Therefore, on this criterion, our argument is much superior.

【Time span で比較する場合】

- Let's compare ADs and DAs.
- As you can see, our arguments (長期間に渡り発生するメリット・デメリットだという説明) .
In other words, they affect us for a long-term period.
- On the other hand, their argument (短期間にだけ発生するメリット・デメリットだという説明) .
In other words, they affect us only for a short-term period.
- Therefore, our [ADs / DAs] give more influence to us in the end.

- For these reasons, our [ADs / DAs] overwhelm [DAs / ADs] .
Therefore, our team has won this round. Thank you.

SECTION 4. JUDGING について

1. 勝敗の判定の基準

試合の勝敗の判定方法について、この種類のディベートでは、Advantage の総量が、Disadvantage より大きい場合、肯定側の勝ちとなります。両者は、便宜的に以下の公式で測るものとされます：

○ Advantage & Disadvantage の評価式

Probability × Value = その Advantage (Disadvantage) の強さ

- ・ Probability: その Advantage か Disadvantage が起こる確率・見込み
- ・ Value: その Advantage または Disadvantage の価値



Lesson 1 では、功利主義という「ある行為の価値は、それがもたらす効用によって決定される」という考えを紹介しました。上の評価式は、その功利を測定するための便宜的な式だと考えて下さい。ある政策がもたらす効用が、それによりもたらされる害悪より大きければ、その政策は採用すべきだ、と前提されます

一般的な価値観では、想像することさえ抵抗がありますが、例えばこの原則に従えば 1000 人の命が救われるためであれば、100 人の命を犠牲にすることは妥当であるとされます。

余談になりますが、渋谷高校の英語ディベート部のある部員（小野君です）が、過去の様々なディベート大会の記録を探してスピーチ原稿を読んでみた所、「全面核戦争が起こる」という議論を、それぞれ異なる論題の試合で数多く見たそうです。全面核戦争が起こる可能性はとても低いものの、起こってしまえばその被害は質的に恐ろしいものになるため、この Disadvantage は大きいと判断され得るそうです（その部員の人はいしばらく面白がって、パラメンタリーディベートの練習でどんな論題が出て、全面核戦争が起こるという議論を出していました）。

2. 勝敗の説明の仕方

勝敗の理由説明では、上の公式を鑑みて、Advantage をまとめたものと、Disadvantage をまとめたもの、どうして一方が他方より大きいか説明することになります。つまりは、Judge という中立の立場から Summary Speech をすることになります。Summary Speech のやり方を学ぶ上では、ジャッジの講評を聞くことが一番参考になると言われることもあります。

SECTION 5. 大会に向けた準備

Policy Debate の高校生全国大会に出場するチームは、大まかに以下のスケジュールで練習をします。

【英語ディベート部の年間予定】	
3 学期	・ 3 月末に次年度の論題発表
1 学期	・ チーム作り（校内のディベート部・有志団体への新人勧誘） ・ 大まかな Advantage, Disadvantage の決定
夏休み	・ リサーチの開始 ・ 都道府県レベルの練習会に参加 ・ 日本語ディベートの全国大会の見学（余裕があれば） ・ 学内の練習試合（全国大会まで 20~30 回前後）
2 学期	・ 都道府県レベルの大会に出場 ・ 他校との練習試合（5~10 回前後） ・ 全国大会に出場（例年、第 3 土曜・日曜）

また、大会に向けた練習では、練習試合をする以外にも、例えば以下のような練習方法によって特定のスピーカーを強化します：

■ Defense サンドバッグ

Defense speaker 役の人に対して、残りの人全員が 1 つずつ Attack を行います。Defense speaker 役の方は、与えられた Attack にその場で応えなければなりません(パラメンタリーディベートでの、POI 練習と似た練習風景になります)。対応できなかった Attack があれば、この練習後に全員で対策を練ります。

Defense speaker 役の方は、最終的には予想される Attack に対して何を言うか、どの証拠を出すかのリストを作ることになります。そのリストをある程度作ったら、他校のチームと対戦して、そのリストでどれだけ対応できるか試します。

■ Cross-examination のあらし

上の Defense サンドバッグと同様に、立論スピーチをする人に対して残りの人全員がスピーチ内容に関する質問をします。

また、大会の論題だけで練習をするのではなく、フォーマットの練習や即興性の訓練のためにも、身近な論題で即興の試合をすると良いでしょう。20 分ほどの準備時間を与え、証拠の引用なしで試合をしてみて下さい。加えて、平行してパラメンタリーディベートの大会に向けて練習すると、より効果的に英語とディベート能力が身につくでしょう。

SECTION 6. ディベートを続ける人へ

本テキストの最後として、大会にこれから出場することを考えていたり、または大会に出場したものの、あまりよい結果が出せなかった人向けに、ディベートを続ける上で大切なことをまとめた文章を引用します。

「初めての英語パラメンタリーディベート」 小林良裕[著] 初版 (2007) より引用

試合に負けて「ディベートなんてもう続けるものか」と思った時に、以下の内容を思い出して頂ければ幸いです。

[1] ディベートを続ける上で大切なこと

ディベートでは、勝ちにこだわると失望します。受け入れられない判定を受けても、ジャッジに抗議をすることはお勧めできません。一度出た判定が覆ることはありません。ジャッジに対する抗議を繰り返すと、周りの人からの自分への評判が悪くなります。例えば、ある国際大会で負けになった際、自分のチームはこの様な理由を告げられました：

「議論はどっちも優れていて良かったです。判断には、本当に悩みました。でも、とりあえずつけてみたスピーカーズ・ポイントの合計が、肯定側の方が高かったので、肯定側の勝ちにしました。以上です」

この勝敗の決め方には納得できなかったもので、そのジャッジに対して抗議をしたところ、大会運営者の一人から休憩時間に呼び出しを受け「ジャッジを苛めるな。今度やったら大会から追い出すぞ」と厳重注意されてしまいました。大会では、いつもジャッジが不足しています。わざわざ休日を犠牲にしてジャッジをしに来てくれた人に対して、抗議をすることは許されません。

確かに、単に大会で勝つことが目的であれば、ディベートはつまらない活動であると思います。ディベートのジャッジは人間です。死刑制度廃止の論題で多くのディベーターが果敢に説得を試みるように、人間は間違いを犯します。納得できない負けを告げられることは、ディベートを続けるとたくさん経験すると思います。期待して待ち望んだ大会の2日目に、自分のチームが予選落ちをしていることを見出す事も、あると思います。

でも、自分を含めて多くのディベーターは、大会で優勝するためだけにディベートを続けてはいません。これから先、大切な試合で負けにされ、納得が出来ないこともあると思います。そんな時には、以下のアドバイスを思い起こしてみてください：

「試合に勝つことを目的にしない。勝つことはただの目標」

大会で優勝をすると、確かに嬉しいでしょう。しかし、大会は優勝チームを選ぶために開かれているわけではありません。2 人の優勝者を選ぶために、例えば 1000 人が参加する大学生世界大会が開かれているわけではありません。ディベート自体が好きで、重要な時事問題に関して意見を交換したくて、日頃の練習の成果を披露したくて、より強い相手と戦いたくて、自分のスピーチで聴衆を感動させたくて、ディベーターは大会に出場する物だと自分は思っています。この考えを特に再認識させてくれた出来事が、以前ありました。以下で簡単に触れます。

[2] 大切な試合で負けて、立ち直れない時に

ある国際大会の決勝で敗れ、落ち込んでいた際に、ある人がこう書いたメモを残してくれました：

「君が今年もまた韓国に来て、君のディベートを韓国の人が今年も見ることが出来て、とても良かったよ。去年と比べてだいぶ上達したね。優勝できなかったのは残念だけど、今年もトロフィーを持って帰るということは、それだけ君が変わらず成功している事を示していると思う。でも、君のディベートの質は変わっている。どんどん向上している。君のディベートに感動したよ」

自分にとっては、どんな賞状よりもどんなトロフィーよりも、このメモを貰った時が、ディベートを続けてきて良かったと思えた瞬間でした。大学院生として研究し、高校教員として働きながらもディベートを続けるために、多くの事を犠牲にして来ました。けれども、それには意味があったと思えました。

ディベートを続けてきて、誇りに思っている試合が 2 つあります。北東アジア大会 (North East Asian Open) の 2005 年と 2006 年の決勝です。2005 年の決勝の論題は「北東アジア諸国にとって、日本はアメリカよりも良い友人である」でした。2006 年のそれは「日本は核武装するべきだ」という物でした。それぞれ自分のチームが肯定側に立ちました。双方とも負けたことには残念ですが、韓国の聴衆を前に、自分が本当に伝えたかったメッセージを伝えられたことに、スピーチを終えた直後はただ満足でした。

自分にとってこれまで、自分が所属している国が、先の大戦およびそれ以前にアジアの他国で行った事をどう捉えるかが、大きなテーマの一つでした。このテーマに対して、そのスピーチを通して自分は一つの答えを出し、聴衆に伝えられた様に思えました。その満足感をそのメモが思い出させてくれました。

自分が英語ディベートを始めたのは、偶然の様でもあり、振り替えれば必然である気もします。家庭の事情で祖父母に育てられた自分は、小さいころ、2人の旧満州からの引き揚げの苦労話と一緒に、フィリピンで戦死した祖母の弟の話をよく聞きました。その人は航空機関連の技師で、招集される前は、今では大学になっている三鷹にあった研究施設で働いていたと聞かされました。

桜の咲く時期に、祖母と一度そこに訪れた時の印象は「外国の大学」というものでした。自分が学部進学先としてその大学を選んだのは、自分の育った国を一度その外からの視点で学んでみたい、という動機からでした。その目的は、大学の授業と1年間の交換留学での経験と同じぐらい、とある留学生が15年前にその大学に残してくれた英語ディベートを通して果たせたと思います。またその集大成が、東京大学のチームとして出場した、前述の北東アジア大会決勝であった様に今では思えます。

大切な試合に負けた時、予選通過ができなかった時、ディベートを続けてきたことに大きな疑問を持つかもしれません。でも、単純な勝ち負け以上のものを、自分はここに至る過程で得てはいないか、そう問いかけて下さい。

ディベーターの中には、優勝するためだけにディベートをしているのでは、と疑問を感じさせる人もいます。単に人前に出て、目立った事をして、表彰されたいのでディベートを続けている人も、たまにいます。英語でしゃべって、カッコ良いことを話してみたくて、結果を残したらみんなが誉めてくれる国際大会に出場したくて、ディベートを続けている人もいます。ディベートをする理由は人それぞれで、他人が口をはさむ物ではありません。でも出来れば、そんなディベーターにはならないで下さい。

勝たなくとも、良いスピーチをすれば、必ずそれを見ていてくれる人がいます。あるジャッジをたまに説得することはできなくても、多くの聴衆を感動させるスピーチが出来ていれば何よりです。負けたとしても、大きな拍手で迎えてくれる人がいるはずです。金メッキのトロフィーよりも、もっと大切なものを仲間から貰えるはずです。

